第 151 回　日清戦争と中国の半植民地化

1　ロシアの中国進出

・世界中で南下政策を進めるロシアは、東シベリア総督（　　）の指導のもと、中国への進出を活発化させていた。

・1858 年、アロー戦争（第２次アヘン戦争）に乗じて（　　）を結んだ。
→（　　）以北をロシア領とした。
・1860 年、アロー戦争終結後、仲介の見返りとして（　　）を結んだ。
→ウスリー川以東の（　　）を獲得した。
→（　　）を建設し、アジアにおける南下政策の拠点とした。

・1867 年、（　　）をアメリカに売却した。
・1875 年、日本と（　　）を結んだ。

・中央アジアでは、イスラーム教徒の清に対する反乱に乗じて、イリ地方に出兵する（　　）を起こした。
→1881 年、清との（　　）を有利な条件で結んだ。
・ブハラ=ハン国とヒヴァ=ハン国を保護国とし、コーカンド=ハン国を併合した。

東シベリア総督ムラヴィヨフ

38 歳で東シベリア総督に就任。「アムールの」という意味であるアムールスキーの異名を持ち、ロシアが東方に領土を拡大することに大きく貢献した。

ベルリン会議（1878 年）

ロシアはユーラシア大陸のあらゆる場所で、南下政策を行っていた。ベルリン会議以降は、アジア方面での南下を強めていた。

ヤークーブ=ベク

元はコーカンド=ハン国の将軍だったが、中央アジアで自立した。イギリスとロシアの中央アジアにおける対立を利用して勢力を伸ばした。

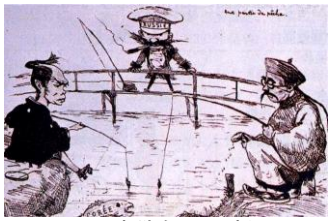
2　日清戦争

・このころ朝鮮では、（　　）が創始した（　　）という宗教が盛んとなっていた。
→1894 年、東学の指導者である（　　）が反乱を起こした。
※この反乱を（　　）（東学党の乱）という。

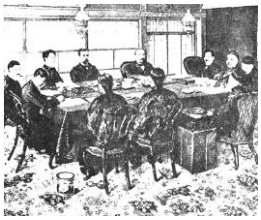
・1894 年、日本と清は朝鮮に出兵し、両国は武力衝突を起こした。
→（　　）が始まり、陸と海でも日本が圧勝した。
→1895 年、日本と清は（　　）を結び、講和した。

全琫準

東学は、西学（キリスト教のこと）への対抗からこう呼ばれた。
崔済愚と全琫準のふたりは、どちらも処刑されている。


日清戦争の風刺画

日本人にはおなじみの、ビゴーによる風刺画である。
魚（朝鮮）を釣ろうとする日本（左）と清（右）、さらに横取りを狙うロシア（奥）。


下関条約

清の代表は李鴻章、日本の代表は伊藤博文首相と陸奥宗光外相。
日本は国家予算の4倍以上の賠償金を得た。

＜下関条約の内容＞
・清は、朝鮮の独立を認めて干渉しないこと。
・清は、日本に（　　）・（　　）・（　　）を割譲すること。
・（　　）を認めること、賠償金２億両を支払うこと。
　→しかし（　　）は、仏・独とともに遼東半島の返還を日本につきつけた。
　→これを（　　）といい、日本とロシアの対立が深まった。
・日本は賠償金をもとに、八幡製鉄所の建設など工業化を進めていった。

3　列強の中国分割

「眠れる獅子」と密かに恐れられてきた清が、日本という新興国にあっけなく敗北したことにより、列強は次々に中国に進出するようになった。
　→列強は、領土の（　　）、（　　）の敷設権、（　　）採掘権などを獲得することで、勢力範囲を定めていった。

・ロシアは、1896 年、（　　）で日本に遼東半島を返還させた見返りに、（　　）の敷設権を獲得し、建設中のシベリア鉄道と結んでいった。

・ドイツは、1898 年、山東半島の湾（　　）を租借し、青島を建設した。
　→ロシアは対抗して遼東半島南部の（　　）と（　　）を租借した。
　→イギリスも対抗して山東半島の（　　）を租借した。

・イギリスは（　　）北部を租借し、長江流域と広東東部にも勢力を持った。
・フランスは、1899 年、（　　）を租借し、広東西部と広西に勢力を持った。
・日本は、台湾の対岸である（　　）を租借した。
・アメリカは、すでに米西戦争に勝利して（　　）を獲得していた。
　→1899 年、国務長官の（　　）は、（　　）を出した。
　※（　　）・（　　）・（　　）の３原則があり、アメリカが中国進出の遅れを取り戻そうとしたため、列強の中国分割は牽制された。

シベリア鉄道の建設

1880 年、ロシアはシベリア鉄道の建設計画をはじめたが、資金不足で工事はなかなか始まらなかった、ということは 130 回でも触れている。では本格的な建設が 1891 年に始まるのはなぜだろう？

国務長官ジョン=ヘイ

マッキンリーと次のセオドア=ローズヴェルトの時代に、国務長官を務めた。アメリカの外交政策が、モンロー主義から大きく転換したことを意味している。

中国分割の風刺画

「中国」と描かれたパイを、列強が分けあっているシーンを風刺している。前列左からイギリス、ドイツ、ロシア、フランス、日本と思われる。

・この時期のアジアでは、開港場の増加、汽船の航路や（　　）の整備により国際貿易が活発化した。
　→インド産の綿花や綿糸をもとに、日本や清では綿織物の生産が盛んとなった。また東南アジア産の米、日本や清の生糸、東南アジアの米などが取引された。

現在の新界

南京条約で香港島、北京条約で九龍半島南部がイギリス領となった。それ以外に、新たに租借された北部や島々をまとめて新界と呼んだ。現在は新界も含めて香港とされる。